

こわいものめぐり

私たちはどのような時に「こわい」と感じるのでしょうか？

人間が様々な状況で「こわい」と感じるのは、私たちの遺伝子に、人類の始まりから続く「こわい」の記憶が深く刻み込まれているからです。本展は、日常に潜む様々な「こわい」を体験することで身に迫る危険から心身を守り脅威を回避する、「こわい」という感覚の働きを科学的に解き明かします。



展示内容

【導入】 恐怖を学習する仕組み
恐怖を感じたり、恐怖を学習する仕組みについて生命科学や脳科学の分野から、パネルで紹介します。

【恐怖の体験】
子どもたちにもっとも馴染みのある学校が、ここでは行ってはいけない異界への入口となっています。

①「こわい」の入口
学校の入口からスタートします。下駄箱が置かれていて、来場者を感じると不意に下駄箱が揺れます。

②にぎやかな無人音楽室
廊下を進んで行くと誰もいないはずの音楽室で誰かが遊んでいます。突き当りは美術準備室で、中をのぞくと不気味に光る石膏像や書きなぐられたデッサンが置かれています。

③「こわい」をさわる
「こわい」感触が集まるゾーンです。不意に手や顔に触れる糸や不安定な床、様々な素材が埋め込まれた壁など、予想していない感触に触れる仕掛けがあります。

④底なし渡り廊下
ハーフミラーを使って再現した底なしのフロアが広がります。不安定な渡り板を頼りにしていると不意に横風が吹いたりして歩くのを躊躇させるような仕掛けがあります。

⑤向こう側への誘い
越えてはいけない「向こう側の世界」があります。無限に続く廊下で少女たちが遊んでいる映像と連動して、「向こう側」へ誘う声が耳元でささやかれるように聞こえてきます。

⑥「こわい」がつくるまぼろしの世界
異次元の学校から脱出して現世に戻るため、最後に待ち受けているのは暗い学校の裏山です。ここは恐怖心や不安が見せるまぼろしの世界。生い茂る樹木の幹に不気味な顔が浮かび上がっていたり、得体のしれない生き物の気配を感じさせる環境音に包まれています。

【恐怖の解明】
脳、神経、遺伝子など最新の生命科学の研究でわかってきたヒトと恐怖の関係や、科学が解き明かした怪奇現象をパネルで紹介します。

【パレイドリア写真】
意味のないものなのに、意味があるように見えてしまうパレイドリア現象という錯覚により、顔に見える写真をパネルで展示します。

【脳の働き体験ゾーン】
様々な錯覚や認識のずれなど、意外な体験を通じて脳の外界認知機能を理解するアクティビティゾーンです。



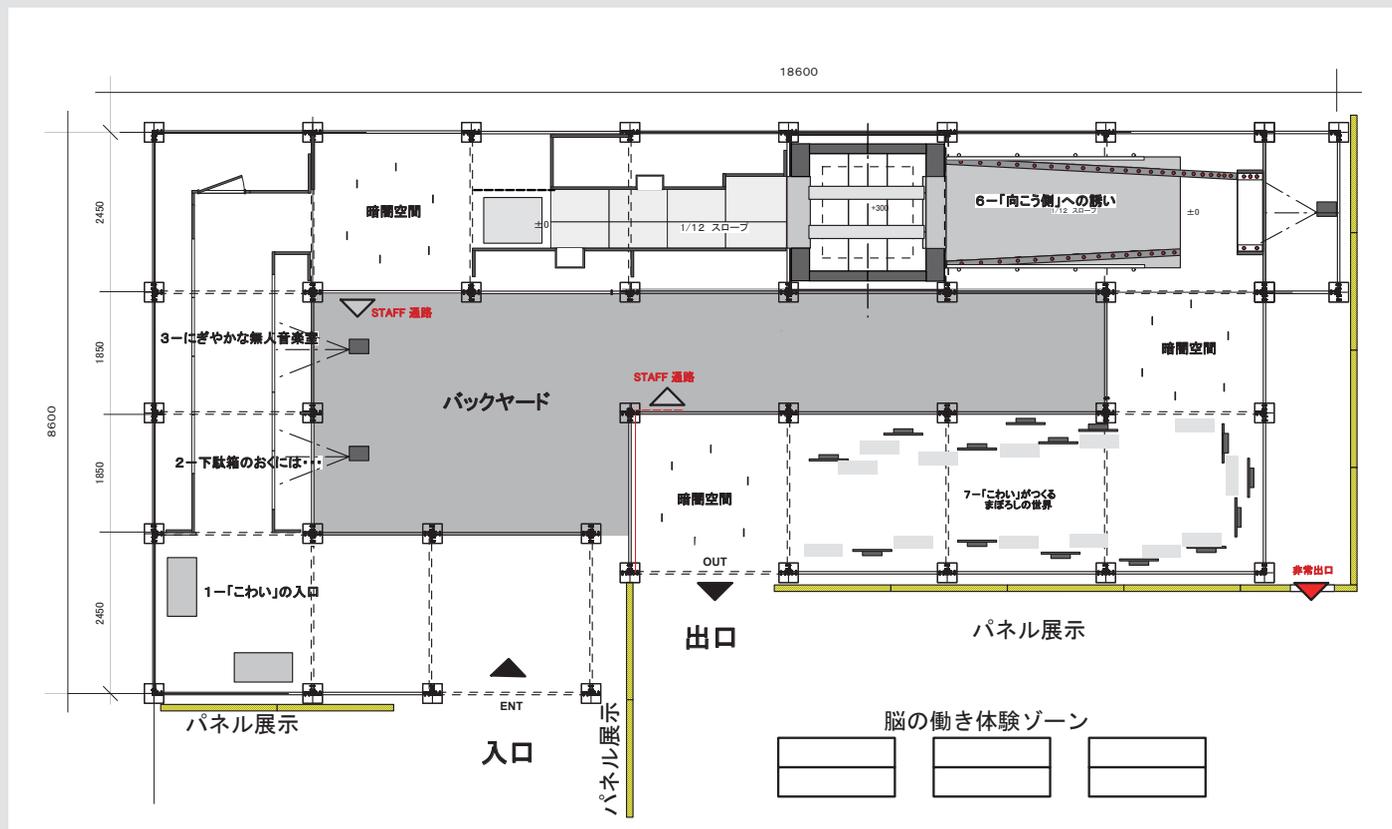
【導入】恐怖を学習する仕組み 展示パネル (全6点)



【恐怖の解明】展示パネル (全4点)

【パレイドリア写真】

展示構成(例)



開催実績

会場	会期	主催	動員数
新潟県立自然科学館	2014年7月19日(土)~2014年8月31日(日)	新潟県立自然科学館	33,352
愛媛県総合科学博物館	2015年4月18日(土)~2015年6月21日(日)	愛媛県総合科学博物館	32,322
青森県立三沢航空科学館	2015年7月18日(土)~2015年9月27日(日)	青森県立三沢航空科学館	11,898

開催条件

会場要件:
 天井高さ 2.8m以上
 会場面積 120㎡~500㎡
 梱包資材保管場所 1坪程度
 ※ 応相談

運営人数:
 通常期 4ポスト程度
 繁忙期 6ポスト程度

貸出費

200万円

- ※ 開催期間1か月程度の金額です。
- ※ 輸送費、設営費、保険料等は含みません。お見積り致します。
- ※ 詳細はお問合せ下さい。

お問合せ

公益財団法人科学技術広報財団
 巡回展担当

〒113-0034
 東京都文京区湯島3-31-6
 大塚ビルディング5階
 TEL: 03-5817-4871
 FAX: 03-5817-4872
 MAIL: pcost@pcost.ro.jp

